

R S K 山陽放送ラジオ 朝耳らじお5・5

「永瀬清子の光を受けて」 vol. 6 二〇二二年八月十六日

## 美しい国

小林章子（R S K アナウンサー）

伊藤正弘（R S K アナウンサー）

白根直子（赤磐市教育委員会熊山分室学芸員）

**小林** この時間は、岡山出身の詩人、永瀬清子さんの詩や生き方、その魅力を永瀬さんのふるさと、赤磐市で研究を続けていらっしやる赤磐市教育委員会熊山分室の学芸員、白根直子さんにご紹介いただきます。お電話がつながっています。白根さん、こんにちは。

**白根** こんにちは。

**小林・伊藤** よろしく願います。

**白根** よろしく願います。

**小林** 八月は終戦の日やお盆があることから、平和や命の尊さに思いをはせる機会が多くありますね。永瀬さんは戦争中の言論統制を経験されたことから、とりわけその戦争の終わった八月を特別に感じられていたのではないかなと思います。

**白根** そうなんです。永瀬さんは、平和という大きな願いのために世界全体に目を向け、その中で自分は何ができるのかを考えていました。ですから戦後、アジア諸国会議や原水爆禁止世界大会に出席したり、湯川秀樹やアインシュタインが提唱した世界連邦運動にも

参加したりしています。

**小林** 平和という大きな願いのために世界全体に目を向けていらしたということですね。さて、今日は永瀬清子さんのどんな詩をご紹介いただけますか。

**白根** 今日は、戦争が終わった喜びを書いた「美しい国」という詩を紹介します。永瀬さんの詩は、この「美しい国」という一篇だけでも語りつくせないことがあります。

**小林** では、シンガーソングライターの沢知恵さんのアルバム『雨ニモマケズ』（コモエスタ C M C A 2 0 3 2 二〇一九年七月）に収録されている「美しい国」をお聴きください。

美しい国

はばかりことなくよい思念を

私は語ってよいのですって。

美しいものを美しいと

私ははほめてよいのですって。

失ったものへの悲しみを

心のままに涙ながしてよいのですって。

敵とよぶものはなくなりました。

醜しやうとよんだものも友でした。

私たちは語りましょう語りましょう手をとりあつて

そしてよい事で心をみたまししょう。

ああ長い長い凍えでした。

涙も外へは出ませんでした。

心をだんだん暖めましょう

夕ぐれて星が一つずつみつかるように

感謝と云う言葉さえ

今やとみつけました。

私をすなおにするために

あなたのやさしいほほえみが要<sup>い</sup>

あなたのためには私のが、

ああ夜ふけて空がだんだんにぎやかになるように

瞳はずかにかがやきあいまししょう

よい想いで空をみたまししょう。

心のうちにきらめく星空をもちましよう。

〔永瀬清子詩集 現代詩文庫1009〕思潮社 一九九〇年二月）

**小林** 沢知恵さんのピアノ弾き語りで「美しい国」でした。伊藤さん、どんなふうに感じましたか。

**伊藤** まず、「美しい国」という詩と美しい沢さんの声。お互いが思ったことをちゃんと伝えて、理解し合うことで「美しい国」につなが

っていくんだなど。これは人と人、国と国、全部つながっているのかなと思います。

**白根** 永瀬さんと沢さんお二人のメッセージも伝わってきたということでしょうか。私は以前、沢知恵さんに、ご自身で作詞作曲される時、歌詞と曲とどちらが先かお聞きしたことがあります。曲が先というのとはよく聞くのですが、詩と曲が同時に生まれるとおっしゃっていたのが非常に印象的でした。沢さんのピアノ弾き語りによる「美しい国」は、この詩の解釈としても聴くことができ、私たちがこの詩をどう読むか、どこに魅力があるのかを知ることが、私たちにもなると思います。

**小林** そうですね。ピアノの心地よい響きと黙読したり声に出して読んだりするのは、また違う魅力がありますよね。この詩に使われている言葉はどれも平易で美しいと感じました。国や性別を超えて幅広い人に届けたいという思いがあるのかなと思いました。

**白根** この詩は、昭和二十一年十月に発表しています。私は発表した時期から、もしかしたら永瀬さんは一年前の終戦の日を思いながら、この詩を書いたのかもしれないと思っています。

**小林** 永瀬さんは晩年に終戦を迎えた日のことをこんなふうに戻っています。

これは、あの、大変なことがあると思つて飛んで帰つていったけれども、あの、やっぱりとても「今日からはもう、電灯を暗くしなくてもいいんだ、それから詩も書けるんだ」というね、開放感がね、とてもあの

嬉しかったと思いますけど。

**小林** 終戦の日を迎えて、これから自由に表現できるといふ解放感  
は格別だったでしょうね。

**白根** そうだと思います。終戦の翌年から、永瀬さんは次々と詩集  
を出版していきます。昭和二十三年にはこの「美しい国」を表題作と  
した詩集『美しい国』を出版しています。さきほど小林さんがおつし  
やった「国や性別を超えて幅広い人に届けたい」という思いを、永瀬  
さんは持っていたんです。そこで英訳しても美しさが出るような詩  
を選んで日英対訳の詩集にして、「精神的な外国への贈り物にしたい」  
と考えたのですが、残念ながら経費の問題で実現しませんでした。

**小林** 永瀬さんの詩のいくつかは、上皇后美智子さまが英訳された  
とうかがっていますけれど、永瀬さんのそうした思いが通じたのか  
もしれないですね。

**白根** はい。きつと響き合うものがあったのだと思います。永瀬さ  
んの次女・井上奈緒さんは、こんな証言をされています。「母が詩を  
つくるときには、『いつも英文に訳しやすいようにフレーズを考えて  
いるのよ』と話していた」。この言葉を受けて詩人の井坂洋子さんは、  
「つまり曖昧な表現ではなく目に見えるように具体的な言葉で書い  
ていたということだ」とおっしゃっています。永瀬さんの詩の魅力  
は、こうした書き方にもあるということがわかります。

**小林** ところで、白根さんがいらっしやる赤磐市の永瀬清子展示室  
の様子をホームページでも見られるようになったそうですね。

**白根** 赤磐市ホームページの中に永瀬清子展示室のページがあり、  
永瀬さんのゆかりの場所を三六〇度のパノラマ映像にして公開して  
います。「ようこそ永瀬清子の里へ」で検索してみてください。ご自  
宅で永瀬清子展示室の様子、熊山橋、吉井川などをそこにいるかの  
ようにご覧いただけます。

**小林** 永瀬さんの詩にも登場する熊山橋、吉井川、そして展示室の  
様子もご覧いただける。今、コロナ禍でお出かけを控えていらっし  
やる方も、ぜひご自宅で楽しんでいただきたいと思います。白根さん今  
日も永瀬さんのすてきな詩をご紹介します。ありがとうございました。

**伊藤** ありがとうございます。

**白根** ありがとうございます。

永瀬清子展示室URL

[https://www.city.akaiwa.lg.jp/annai/kyouikuinkai/kunayama/tenjitsu/index.h](https://www.city.akaiwa.lg.jp/annai/kyouikuinkai/kunayama/tenjitsu/index.html)

tml

パノラマ映像は、詩人永瀬清子生家清子の家や、熊山英国庭園内にある小野田小  
学校の校歌碑なども追加しました。

※記載されている情報は、二〇二二年八月十六日現在のものです。

〈参考文献〉

- 永瀬清子「裸麦小麦の手紙」『女詩人の手帖』日本文教出版 一九五二年十二月
- 井上奈緒「その後」『時代を駆けぬけた詩人 母 永瀬清子の思い出』井上奈緒  
二〇一一年九月
- 井坂洋子、なんば・みちこ対談「社会的な自覚と行動で書く」『資料集―永瀬清子の詩の世界 第五集』赤磐市教育委員会熊山分室 二〇一八年三月
- 毎日新聞出版編『降りつむ 皇后陛下美智子さまの英訳とご朗読』毎日新聞出版  
二〇一九年一月